第 300 回昭和の森自然観察会

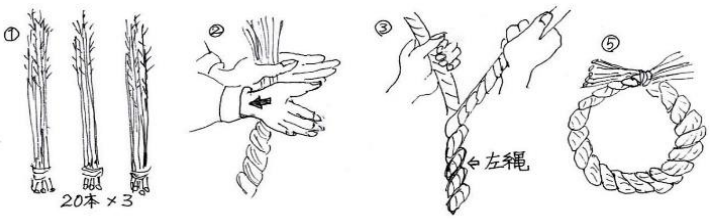
里山のくらし「稲わらで正月飾りを作ろう」

須田聰惠（千葉市）

日　時：2016 年 12 月 11 日（日）
参加者：76 名（大人 63 名　子ども 13 名）・指導員 12 名
担当指導員：木嶋惠子、須田聰惠
午前中：参加指導員の皆さんに藁を一人分 60 本ずつ数えてもらった。
それから縄を綯い、自分の注連飾りも作り、本番に備えた 。

当日は天気が良かったので、太陽の広場の一角にシートを敷いて実施しました。
はじめに全体で「人々の暮らしと稲作の関り」について学びました。:稲わらは主食である「米」を実につける稲を刈り取り、脱穀した後の茎（葉付き）を干したもの。縄文時代に大陸より伝わり、2500 年前の弥生時代には水田稲作が始まり、それ以来、稲わらは人々の生活の様々な場面で使われてきた:稲わらは究極のエコ素材である:人々は自然の恵みを受けると共に悩まされつつも、知恵と努力で稲作を続けてきた:生活様式の変化により稲わらの需要は減っている:機械化で収穫時は藁も刻んでしまうために棚田などで鎌を使った稲刈りをやった後でしか藁は手に入らなくなっていることなど。そして、今年も藁を手に入れるまでが大変だったこと（昭和の森ビオトープの稲藁が、長雨の為収穫後カビが生えてしまい、状態が良くなかったので、今年も大草で活動している芳我さんにお願いして古代米の藁を分けていただけたが、長いこと乾燥していたので若干弱っていた）を紹介しました。

先ずは、輪飾りの基本**「縄ない」**をしました。今年も植木鉢トレーに水を入れ、手を濡らしながらやったので、藁の持ち方とよじらせるタイミングを覚え、上手に仕上げて、継ぎ足して長い縄をなってしまう人もいました。



いよいよ**しめ飾り作りの本番**です！

① 20本を1束にして3束で作りました。
② 最初は2束で。右足で2束の元を一緒にしてしっかり押さえ、藁をそれぞれ手前にねじり
③ 左巻きになっていきます。3 束目も手前に撚り②の縄に左巻きに巻き付けていき、穂先を上にして重ね輪にして止めました。ハサミで飛び出している藁を切りきれいな輪にしました。それに付ける枝や葉・実などを提示してその飾りの謂れを話しました。

松:常盤木で「祀る」につながる樹として、古来中国では「生命力・不老長寿・繁栄」の象徴とされ、それにならって日本でも「おめでたい樹」とされた。**竹**:「生命力」。
梅:「出世・開運」。**橙**だいだい:「子孫繁栄」。**南天**:「難を転じる」。**扇**:「末広がり」。**稲穂**:「豊作の喜びや祈願」。
杠ゆずりは:「家系の存続・繁栄」。**扇**:「末広がり」。
裏白:後ろ暗くないから「清浄心」
羽状複葉から「夫婦和合・共白髪」繁栄」。
ヤブコウジュ・カラタチバナ・センリョウ・マンリョウ:十両・百両・千両・万両で金運。
みなさんは、色や大きさ・バランスを考え、工夫しながら楽しんで作っていました。
そして後片付けも手伝っていただきました。良いお年をお迎えになったことと思います。